



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 282

2023.11▶12

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行 2023年11月1日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

開催中！ 特別展と企画展

特別展

交感する神と人 ——ヒンドゥー神像の世界

会期：2023年12月5日(火)まで

会場：特別展示館

ヒンドゥー教の世界では、神像は実際に神が宿るものとされています。人びとは五感を通じ、像に宿る神がみと親しく交流します。さまざまなモノに現れる神がみの姿やそれらに働きかける人びとの営みを紹介し、神との交感を核とする信仰の世界に迫ります。

関連企画 ★詳細は本紙3ページ！

第543回友の会講演会

ヒンドゥー神像の美と信仰——飾りつけをめぐる

講師：福内 千絵（大阪芸術大学非常勤講師）

日時：12月2日(土) 13:30～15:00



企画展

カナダ北西海岸先住民のアート ——スクリーン版画の世界

会期：2023年12月12日(火)まで

会場：本館 企画展示場

北アメリカ北西海岸地域の先住民は、1960年代から神話や口頭伝承、事件などをモチーフとして版画制作をはじめました。北西海岸先住民のユニークな作品をとおして、彼ら／彼女らの共生の世界観や体験してきた社会変化を紹介します。



… エントランスホールイベントもお楽しみください …

版画展

田主誠 Museum of Dreams ——みんぱくと歩んだ版画家の創作世界

会期：2023年11月28日(火)まで

会場：本館1階 エントランスホール

みんぱくの開館当初から『月刊みんぱく』など刊行物の挿画をはじめ、みんぱくの研究者とコラボレーションする形で新聞や雑誌の仕事を数多く手掛けた田主誠さん。みんぱくをこよなく愛した版画家の多様な「目で見る民族学」といえる作品世界をお楽しみください。



展示やイベントが目白押し！
秋のみんぱくをお楽しみください。

秋の行楽シーズンがやってきました。みんぱくでは、特別展や企画展に加え、エントランスホールイベントも開催中です。気候のよいこの時季、ぜひみんぱくに足を運びください。

みんぱくの展示は館内だけでなくとどまりません。熊本県五木村では、二度目となるみんぱくとの共催展示を開催中です。こちらもあわせてお楽しみください。

八月より、友の会への新規ご入会・ご継続のお手続き方法にオンラインでのクレジット支払いが加わり、ご自宅からでもお手続きいただけるようになりました。ぜひご利用ください。

お手続きがさらに便利に

ご入会・ご継続のお手続き方法に
オンラインでのクレジット支払いが
加わりました！

みんぱく館内にある友の会カウンター、郵便局でのお手続きのほか、オンラインでのクレジット支払いが、お手続き方法に加わりました。ご自宅からでも、みんぱく友の会のご入会・ご継続のお手続きが可能です。詳細は、みんぱく友の会ホームページ内の「ご入会の案内」をご確認ください。

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/#online/



特別展・企画展に関する詳細はみんぱくホームページへ▶▶▶

<https://www.minpaku.ac.jp/exhibition/>

エントランスホールイベントに関する詳細は千里文化財団ホームページへ▶▶▶

<https://www.senri-f.or.jp/gallery/>

ミュージアムで
世界と出会う

国立民族学博物館は、2024年に創設50周年を迎えます。2024年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、創設50周年を記念して、常設の本館展示から選びました。みんなの研究者たちが50年かけて収集したモノをとおして、世界と出ってみませんか。

友の会会員価格 1,287円(税込)

25cm×25cm

(開くと縦50cm×横25cm)

オールカラー/28頁/中綴じ

定価 1,430円(税込)

5冊以上おまとめ購入 1冊1,144円(税込)

通信販売の場合、別途発送手数料が必要です。

ご購入
お問い合わせ

みんなくミュージアム・ショップ(水曜日定休)

e-mail shop@senri-f.or.jp

オンラインショップ「World Wide Bazaar」

<https://www.senri-f.or.jp/shop/>

共催展示

ヒストリアテラス五木谷 特別企画展

九州山地の焼畑文化

会期 2023年12月3日(日)まで

会場 五木村歴史文化交流館 ヒストリアテラス五木谷



九州の中央部に位置する九州山地は、標高1500m前後の険しい山々からなります。先史時代から現在までそこに暮らす人びとは、焼畑をはじめユニークな「山の文化」をつくってきました。この展示では、九州山地を対象に焼畑だけでなく多様な生業や山の信仰の世界を紹介します。かつては日本に数多く存在した山の民の生活や文化をとおして、平地部の都市を中心に動く現代社会を照射し、その未来について考えます。

第85回体験セミナー

「日本文化の多様性をさぐる—佐々木高明が歩いた九州の山村を訪ねる」でも訪問します！(セミナーは満席です)

開館時間 9:00～17:00(月曜日休館)

観覧料 大人(高校生以上)300円・小学生・中学生200円

主催 五木村歴史文化交流館 ヒストリアテラス五木谷・国立民族学博物館

五木村歴史文化交流館 ヒストリアテラス五木谷

〒868-0201 熊本県球磨郡五木村甲 2672 番地 58

<https://itsukidani.com>



第84回体験セミナーの
おもな訪問先

- ・北海道博物館
 - ・北海道開拓の村
 - ・北海道大学植物園
 - ・サケのふるさと 千歳水族館
 - ・知里幸恵 銀のしずく記念館
 - ・ウポポイ(民族共生象徴空間)
 - ・二風谷
- 【平取町立二風谷アイヌ文化博物館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、工芸家の工房などを訪問】

また、ヤウンモシリ・北海道の自然や歴史を知ろうと、道立の総合博物館、植物園や水族館など自然史系の施設も観覧しました。こちらのプログラムも好評でした。(文・事務局)

四年ぶりに宿泊を伴う体験セミナーを実施しました。訪問先は北海道。アイヌ民族の「文化復興のいま」を体感することが旅の目的です。ここ十数年のあいだに、日本ではアイヌ民族に関するさまざまな施策が推進されました。それと同時に、アイヌ文化を支え、継承する方々が発信する機会も一段と増えています。

セミナーでは、文化の担い手である方々から直接お話を聞く機会をなるべく多く設けました。さまざまな立場・エピソードをもつ方々が、それぞれの方法で、アイヌ文化を支え、発信していました。アイヌ・和人の関係性やその歴史を振り返るばかりでなく、私たちそれぞれが、多様な存在であることを見つめ直す機会にもなったように感じられました。

アイヌ文化を支え、継承する方々から貴重なレクチャーを受けることができました。現在におけるアイヌ文化の活性化パワーを感じました。(増山朗遊さん)

アイヌ民族について殆ど知らなかった、ということを知り知らされました。民族学研修の旅で、海外の少数民族について学び触れることはあったけど、日本の国内で、この年になって初めてこんな体験をしたことにショックを受けています。私の生まれた山深い村も、私の生まれたころまで同じような暮らしだったと思うと、日本人・人間のルーツは皆同じなのだという当たり前のようなことに改めて気づかされました。(佐藤善秀さん)

ふきだしは参加者の感想です。

第84回体験セミナー 実施報告

ヤウンモシリ(北海道)への旅

—アイヌ民族、文化復興のいま

講師 齋藤玲子(民博准教授)

実施日 2023年9月7日(木)～9月10日(日)



ウポポイの文化解説プログラム「ウバシクマ」。一方的な解説ではなく、利用者との語らいを重視していた。

11・12月のイベントスケジュール

■特別展

12/5(火)まで
「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」

■企画展

12/12(火)まで
「カナダ北西海岸先住民のアート
——スクリーン版画の世界」

■エントランスホールイベント

11/28(火)まで
「田主誠 Museum of Dreams
——みんぱくと歩んだ版画家の創作世界」

●友の会講演会【オンライン聴講は要事前申込】

11/4(土) 久保正敏(※)、12/2(土) 福内千絵(※)
※12月は終了後、展示見学会あり

●みんぱくゼミナール【要事前申込】

11/18(土)岸上伸啓、12/16(土)相島葉月

●みんぱくウィークエンド・サロン

11/5(日)三尾稔、11/12(日)豊山亜希・上羽陽子
11/19(日)上羽陽子、11/26(日)伊藤敦規
12/3(日)平野智佳子、12/10(日)松本雄一
12/24(日)菅瀬晶子

●みんぱく映画会【要事前申込】

11/3(金・祝)「ガンジスに還る」＜受付終了＞

●その他の催し

11/19(日)中牧理事長のオンラインサロン
11/25(土)企画展関連ワークショップ
「スクリーン版画に挑戦」＜受付終了＞
11/30(木)ミナパク オッタ カムイノミ

【館外での催し】

■共催展示

12/3(日)まで
会場:ヒストリアテラス五木谷(熊本県)
「九州山地の焼畑文化」

●公開講演会【要事前申込】(※)

11/10(金) 会場:日経ホール(東京都)
「依存するヒト——民族・国家・嗜好品」

予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(※印)で実施する催しもございます。詳細はみんぱく、ならびに友の会のホームページをご確認ください。

◆イベントの参加には必ず会員登録をお持ちください。

友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

- ・会場(定員90名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。
- ・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

※会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます(参加費500円)。

大 阪

第543回

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」関連】

ヒンドゥー神像の美と信仰

——飾りつけをめぐる

講 師: 福内 千絵(大阪芸術大学非常勤講師)

日 時: 2023年12月2日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法: ①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

※終了後、展示の見学会をおこないます(要会員証もしくは観覧券)。

ひろく信仰の場において、礼拝像に対する「飾りつけ」の行為はみられます。ヒンドゥー教の信仰実践においても、神像への飾りつけは重要な一角を占めています。しばしば過剰に感じられるほど華やかに、そして香しく施される装飾。本講演では、祭礼時の神像装飾の具体例を紹介し、香りの体験を交えながら、飾りつけが喚起する美と神と人との関係に迫ります。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/543tomo/>



第544回

もめごとの扱い方

——21世紀のガダルカナル島で平和について考える

講 師: 藤井 真一(民博助教)

日 時: 2024年1月6日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法: ①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

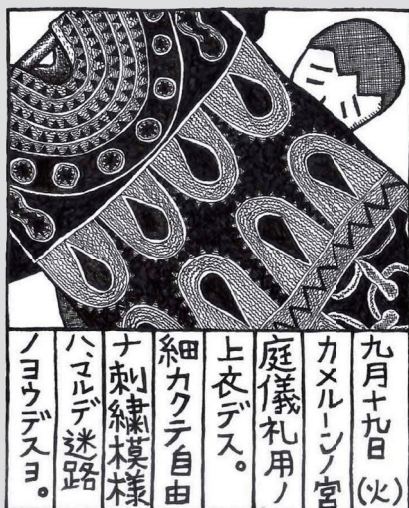
太平洋戦争の激戦地として有名なソロモン諸島ガダルカナル島では、終戦から約50年後に「民族紛争」と呼ばれる内戦が起きました。約4年半に及んだ内戦に対して、さまざまなアクターが関与する紛争処理が試みられてきました。本講演では、「もめごとを収める」という観点から、内戦後の平和構築とソロモン諸島の紛争処理の文化についてお話しします。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/544tomo/>



ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



今年も開催! 友の会会員限定企画です。

中牧理事長のオンラインサロン

みんぱく友の会を運営する千里文化財団の理事長は、友の会会員のみなさんにもおなじみ、みんぱく名誉教授の中牧弘允先生です。

11月はみんぱく友の会が発足した、いわば「お誕生日」の月。この機会に、中牧理事長を囲んで、おしゃべりを楽しみませんか? 理事長のミニレクチャーも予定しています。みなさん、ぜひご参加ください!

日時 2023年11月19日(日)13:30~14:30

無料のオンラインイベントです。

11月14日(火)までにお申し込みください。

※お申し込みいただいた方には後日、詳しい参加方法のご案内をさしあげます。

催しの詳細・受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/rijichosalon003/>



中牧理事長



館内催し 会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会には、友の会会員のみなさまを対象に先行予約がございます。
該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。先行予約枠が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。



館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>

みんぱくゼミナール

第540回

「友よ、水になれ」

——メディア化時代における身体知のゆくえ

講師 相島 葉月(民博准教授)

日時 2023年12月16日(土)13:30～15:00(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間：11月13日(月)～17日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間：11月20日(月)～12月13日(水)

・当日参加受付(定員80名)

第541回

博物館の舞台裏

——資料の保存を考える

講師 園田 直子(民博教授)

日時 2024年1月20日(土)13:30～15:00(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間：12月11日(月)～15日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間：12月18日(月)～1月17日(水)

・当日参加受付(定員80名)

みんぱく映画会

みんぱくワールドシネマ

はちどり

解説 諸 昭喜(民博助教)

司会 菅瀬 晶子(民博准教授)

日時 2024年1月27日(土)13:30～16:30(開場13:00)

会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間：12月11日(月)～12月15日(金)

■一般受付

・オンライン・電話予約

期間：12月18日(月)～1月19日(金)

みんぱく映像民族誌シアター(館外で開催)

みんぱく製作のDVD「みんぱく映像民族誌」シリーズの収録作品を上映します。

会場 シアターセブン(大阪・十三)

参加方法 ①会場参加(シアターセブン)[各回定員55名]

②オンライン参加(ライブ配信)[各回定員100名]

津軽のカミサマ

解説 大森 康宏(民博名誉教授)

司会 黒田 賢治(民博助教)

日時 2024年1月13日(土)13:30～16:00(開場13:00)

申込期間

■友の会先行受付(定員10名)

期間：12月4日(月)～12月8日(金)

■一般受付(オンライン予約)

期間：12月11日(月)～1月5日(金)

千年の時を奏でる

——モロッコのアンダルシア音楽祭

解説 堀内 正樹(成蹊大学名誉教授)、西尾 哲夫(民博名誉教授)

司会 黒田 賢治(民博助教)

日時 2024年1月21日(日)14:00～16:00(開場13:30)

申込期間

■友の会先行受付(定員10名)

期間：12月11日(月)～12月15日(金)

■一般受付(オンライン予約)

期間：12月18日(月)～1月12日(金)

ジャワ島チルボンの木偶人形芝居

——ワヤン・ゴレック・チュパック

解説 福岡 正太(民博教授)

司会 黒田 賢治(民博助教)

日時 2024年2月10日(土)14:00～16:00(開場13:30)

申込期間

■友の会先行受付(定員10名)

期間：12月18日(月)～12月22日(金)

■一般受付(オンライン予約)

期間：1月9日(火)～2月2日(金)

面打ち

——京都の能面師

解説 吉田 憲司(民博館長)

司会 黒田 賢治(民博助教)

日時 2024年2月18日(日)13:30～16:00(開場13:00)

申込期間

■友の会先行受付(定員10名)

期間：1月5日(金)～1月12日(金)

■一般受付(オンライン予約)

期間：1月15日(月)～2月9日(金)

お申込方法

■友の会先行受付

【申込先】千里文化財団友の会事務局

電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く)

いずれも申込先着順。参加無料。ご本人を含む2名様までお申し込みいただけます。

ただし、みんぱく映画会のご参加には、会員証または展示観覧券が必要です。当日11時より会場前にて入場整理券を配布します。

■一般受付

みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

友の会が企画する刊行物やイベントの情報を中心に定期的に発信します。
会員先行予約のある館内催しの情報も随時お届けします。

会員以外の方のご登録也大歓迎です！

QRコードを読み取って友だち追加してみてください！

登録方法

①LINEを起動

②[その他]→[友だち追加]→[QRコード]を選択

③カメラが起動したらQRコードを読み取り、[追加]を選択したら完了です。

※LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。

LINE



■第539回 ■2023年8月5日(土)

【コレクション展示「ハンターのみた地球」関連】

人類の原点はハンターにあり！

関野 吉晴（探検家）、池谷 和信（民博教授）



講演会「人類の原点はハンターにあり！」での関野さんと池谷さんの対談の様子。2023年

約七〇〇万年の人類の歴史のうち、狩猟採集生活の時代が九九・八パーセントを占めているといわれています。この間、共感力に富んだ社会性を育んだ人類は、ホモ・サピエンスの時代に、地球全体へと拡散することになりました。人間らしさの原点をハンターにさぐりたい。こうした動機のもと対談を計画しました。

関野さんは、人類拡散の旅路「グレートジャーニー」を、南米最南端の地を出発点に逆ルートからたどった探検家です。学生時代にアマゾンの少数民族の集落を訪ね、日本で医師になったのち、一九九三年から一〇

年かけて、南米から人類誕生の地・アフリカを目指しました。池谷さんは異なる環境下のハンターを追い求め、世界各地を調査しています。講演会では、講師がそれぞれの訪問先・調査地で出会ったハンターについて紹介するとともに、ハンターの営みをとらえて、現代社会がもつ課題を紐解くポイントを示していただきます。

現代社会では孤食など、他者とのかかわりの希薄さが問われています。狩猟行為には、肉をえるという目的のほか、獲物を分け合うなかで培われた、人とのつながりを求めるという人間らしさの原点が隠されているといえます。狩猟採集活動を営んでいたからこそ、環境にあわせて技術を改変し、地球全体へと拡散できたのだという指摘には、人類がもつ創造力をも感じることができました。ほかに、人と生きものののかかわり、持続可能な資源利用のあり方など、話題は多岐に渡りました。

講師の訪ねたエリアを重ねること、多くの事例からハンターについて考えることができました。（文事務局）

■第540回 ■2023年9月2日(土)

パプアニューギニアの貝と石のお金の話

門馬 一平（民博 特任助教）

パプアニューギニア・ルイジアード諸島には、貝や石のお金を求めてカヌーで航海する人びとが住んでいます。貝のお金は、ネックレスの形、石のお金は石斧の形をして使います。今回の講演ではこの「お金」を使って開催される、葬送のための贈与儀礼を、現地の映像を交えて紹介しました。

贈与儀礼は、土地や親族構造、亡くなった人の記憶などが絡まり合い、複雑な体系をなしています。そのなかでも、亡くなった人との記憶や関係性に基づく「ガボブ」という概念は、人びとにとって儀礼を開催する大きな動機となっています。ガボブとは、人が亡くなった際に課される禁忌の一種で、それぞれの人が死者を偲んで個別に守っています。個人が独自の関係性のなかで死者を偲んでいることを、共同体全体で共有するために、贈与儀礼は開催されます。

『季刊民族学』一八六号では、この「ガボブ」とそれにまつわる事例を紹介しています。あわせてお読みいただけると、今回の講演会の内容がより深まるかと思えます。



航海カヌーで石のお金を求めて交易に出る人びと。撮影：門馬一平、2023年

このように考えると、儀礼のなかで流通する貝や石のお金は、他人には見えない「関係性」という個人的な感覚を共同体のなかで共有し、可視化する際に必要な媒体だということとがわかります。個人と個人のつながりを重視するメラネシア社会だからこそ、このような「お金」の使い方を発展させてきたのかもしれない。講演会では最後に、売買の文脈ばかりが蔓延る「先進国」に、別の文脈での「お金」の使い方を伝えようとするニューギニアのある人物の取り組みについても紹介しました。

提携施設でのご優待に関するご案内

みんなく友の会の会員証をご提示いただくと、友の会の提携施設で優待サービスを受けられます。提携施設については、友の会のホームページをご参考ください。提携施設2館からのご案内です。

■奈良国立博物館

「第75回正倉院展」は会期中、日時指定制となり、友の会会員証の提示による割引が適用されません。常設展は変わらず割引が適用になります。

■サントリー美術館

2023年12月に予定していた「サントリー美術館コレクション名品展(仮称)」の会期が変更になりました。

変更後の会期:2024年4月17日(水)~6月16日(日)

友の会の提携施設について

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/service/

※催しの詳細、休館日などは各館のホームページをご確認ください。

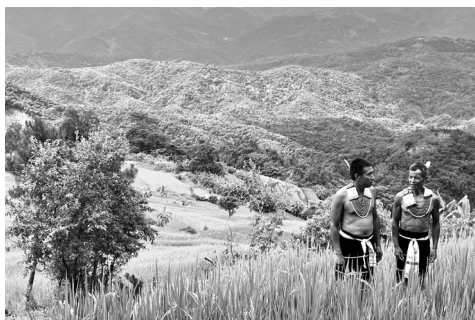


■第134回■2023年6月24日(土) 会場:モンベル御徒町店

人はなぜ共に歌うのか？

—インド山岳民族ナガの伝統ポリフォニーと共生社会—

岡田 恵美 (民博准教授)



棚田で声を重ねるチャケサン・ナガ。
撮影・岡田恵美、インド ナガラランド州 ツルツシュ、2022年

世界各地にかつては存在した、日常に息づいた集団での歌唱文化。生活様式や生活環境の変化によって、その多くは元来の「脈絡」で歌われることはなくなりました。しかしながら、現在も棚田での農作業や人が集った時に自然と歌唱が始まる地域があります。それがインド北東部ナガラランド州南部に暮らす、チャケサン・ナガというモンゴロイド系山岳民族の農村社会です。太平洋戦争末期、一九四四年の通称「インパール作戦」では日本軍が進軍して戦場となった地域で、首狩の風習や

アニミズム信仰があつた彼らは二〇世紀後半にバプテストに改宗しキリスト教徒になりました。

講演会では、そうした歴史的・民族的背景も含んだ彼らの社会の概況や、ナガの音楽文化の特殊性についてポピュラー音楽・教会音楽・伝統歌唱の三つの観点から紹介しました。その上で、現在も農村で継承されているチャケサン・ナガの「リ」^リと呼ばれる合唱形態の伝統ポリフォニーの文化に着目し、彼らの生活の中で集団歌唱がどのような社会的役割を担っているのかについて考察しました。その農村社会では、村の共同体への分配や貢献を重視する伝統的な社会構造が根底にあり、巨石信仰や勲功祭^{くんこうさい}宴は現存しています。そして協働作業を必須とする丘陵の地形やそこでの集団における労働のシステムが、彼らの即興的で主従関係のないポリフォニックな歌唱と関わり合い、言い換えれば、「共に歌うという行為」自体が、連帯や相互扶助が必要な農村社会でそれを強固にする社会的な意味を有しているのです。

■第135回■2023年9月17日(日) 会場:モンベル渋谷店

神になる人びと

—南インド・ケララ州のティヤム祭祀—

竹村 嘉晃 (平安女学院大学准教授)



ティヤム祭祀で助手が実践者に化粧をする様子。
撮影・竹村嘉晃、インド ケララ州 カンヌール市、2019年

今回の友の会の講演では、南インド・ケララ州北部のヒンドゥー社会で盛んに行われている神霊祭祀(ティヤム)について紹介しました。ティヤム祭祀は、乾季にあたる一〇月中旬から六月初旬にかけて、カースト寺院やカーヴと呼ばれる祠などで夜を徹して行われます。祭儀の中心的な担い手は、かつて「不可触民」と呼ばれ、長きにわたって社会経済的に弱者であり続けてきた低カースト(今日の行政上では指定カースト)の男性たちであり、彼らは自らの身体に神霊を呼び降ろした後、幾何

学模様の化粧と赤を基調とした重層的な装束を身にまとった神霊として人びとの前に姿を現します。そして、自らの起源譚を再現するパフォーマンスを披露した後、寺院関係者や祠を祀る大家族、参拝する村人たちの悩みに耳を傾け、託宣を与えて祝福します。

今回の講演では、SNSなどのメディアの影響によって祭儀が隆盛している現状を紹介しながら、村人たちが神霊といかに交感しているのか、現世利益を求める参拝者の様子を明らかにしました。そして、カーストの伝統的職業として神霊の役割を世襲的に受け継いできたティヤム実践者たちの日々の暮らしをフィードバックの経験をもとに紹介すると共に、伝統的な祭儀が活性化している今日において、祖父・父・甥／息子という三世代の担い手たちのライフストーリーとそれぞれの祭儀に対する価値観を比較しながら、世代間の相違や祭儀との関わり方について考えました。

本紙掲載の情報は、2023年10月20日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1 (国立民族学博物館3階)

電話: 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX: 06-6878-3716

e-mail: minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>